

他職種間の連携に関するアンケート調査から見えてきたもの

- ノロウイルスによる急性胃腸炎集団発生時の対応を振り返って -

施設名： 沖縄県 いずみ苑

発表者： 高志保 優子

我喜屋 美幸

石川 伸枝

はじめに

今回、施設内において、ノロウイルスによる急性胃腸炎が集団発生し、感染対策のあり方について振り返り、SHELL 分析調査を全スタッフに実地した。さらに要因を中心に項目を分けアンケートを取り感染経路を追った。その結果、情報伝達に時間がかかったのではないかと誘引が明らかになり「連携」をテーマとするアンケートを取り、内容を分析し考察したことを報告する

研究期間

期間：平成 19 年 10 月より平成 20 年 6 月
対象：いずみ苑全職員
提出者：介護職員 81%・看護職員 100%
ケアマネ 50%・相談員 100%
回収率 84%

結果

Q1 . 看護職と介護職は連携出来ていると思いますか？

Q2 . 看護職は「介護職の役割」を、介護職は「看護職の役割」をそれぞれ理解してくれていると思いますか？

Q3 . 看護と介護の役割をイメージで選んで下さい。

Q4 . 看護職と介護職の仕事はどう違うと思いますか？

考察

1 役割への理解

2 スキルの向上

課題

介護保健施設で働く職員の多くは「介護と看護の壁」を感じたことがあると聞く。その壁はなぜ生まれるのだろうか。

おわりに

現在、いずみ苑では、ショートミーティング時に利用者の情報を共有するため、問題点を出し合い、利用者の状態を共有する努力をしている。利用者・家族により良いサービスを提供出来るように「連携」と「協働」を重視し、ケアの質を高めていきたい。

